

# 中国・大連通信

(北九州市大連事務所活動報告)

## 大連から高速鉄道で2時間 瀋陽のBMWスマート工場を見学

### ポイント

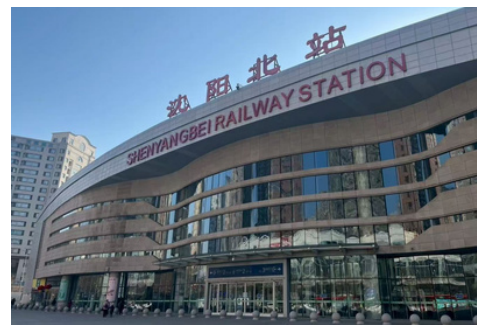
- 中国の高速鉄道が支える都市間のスピーディーな移動
- ロボットと人が協力する最先端のスマート工場
- 中国での自動車市場の変化

### Topic 01 中国の高速鉄道が支えるスピーディーな都市間移動

◇今回の大連から瀋陽までの出張は高速鉄道（日本でいうところの新幹線）を利用しました。なお、今回の大連→瀋陽間の距離は400kmで、大阪→東京間くらいの距離がありましたが、片道2時間程度とあっという間に着きました。中国の高速鉄道は総延長が約47,000kmと世界で最も長い高速鉄道網です。日本の新幹線の総延長約3,000kmと比較すると、中国の高速鉄道の長さがより際立っていることがわかります。

◇中国の高速鉄道は利用手続きが比較的簡単であることも特徴です。多くの場合、スマートフォンのアプリで乗車券を購入することができ、駅ではQRコードや身分証を使って改札を通過します。

駅構内で手荷物検査を受けた後は、そのままホームへ向かうだけで乗車できます。切符の発券や複雑な手続きがほとんどなく、中国語があまり分からなくとも、短時間で迷わずスムーズに乗車できる点は、非常に利便性の高さを感じました。



### Topic 02 ロボットと人が協力する最先端のスマート工場



◇瀋陽にあるBMWのスマート工場では、多くのロボットが稼働する自動化された生産ラインを見ることができました。平日2時間の見学コースに参加させて頂きましたが、非常にコース参加者が多く、それだけスマート工場に対する人々の関心が高いことを感じられました。

◇コースでは、様々な工程で高度に自動化されている作業の様子を見学することができました。作業員は工場の大ささと比較すると少なく感じるほど省人化された工場内でしたが、自動車の窓枠にガラス窓をはめるといった繊細さと経験が求められる作業においては、作業員が手作業で一つ一つ丁寧にっていました。スマート工場でありながら、人の手による作業も重要な役割を担っていることが印象的でした。

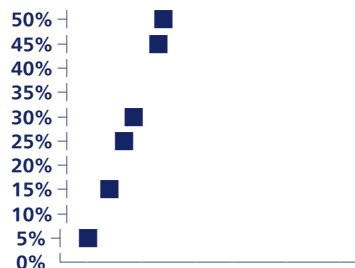
### Topic 03 中国での自動車市場の変化

◇中国はこれまで豊富な労働力及び比較的安い人件費を背景に、外資企業の生産拠点として発展してきました。しかし、近年では中国市場規模の拡大、技術力の向上から、製造だけでなく研究開発拠点としても発展しています。

BMWのスマート工場はその象徴的な拠点の一つです。

◇中国の自動車市場は近年、大きな転換期を迎えています。それは右記のグラフにあるようにEV車が急速に浸透していることです。日本のEV普及率は2024年時点で3%にとどまる一方、中国では50%に迫る勢いと、普及率においては大きな差がある現状です。今後もこうしたスピード感ある中国市場への進出や情報収集を検討される方は是非お気軽に当事務所へお声がけください。

中国EV浸透率（新車販売）



2020 21 22 23 24  
 出典  
 International Energy Agency  
 Global EV Outlook 2024

本稿の担当 = 北九州市大連事務所 上善 (fusuzhang@kitakyusyuu-dl.com)

本稿に対するご感想、中国に関するお問合せなど何かありましたらぜひご連絡ください。